

## 2019年1月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500 hPa 高度をみると、極うずはシベリア側及び北米側に分裂した。北大西洋北部のブロッキング高気圧から亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが見られ、東シナ海付近で正偏差、地中海周辺及び日本の東海上で負偏差となった。200 hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は、中東北部、中国東部～西日本では平年の位置と比べて北寄り flowed。海面気圧をみると、北大西洋北部及び東アジアで正偏差、地中海～東シベリアで負偏差となった。アリューシャン低気圧は平年と比べてベーリング海周辺で強かった。850 hPa 気温をみると、中東～中央アジア、東アジアで高温偏差、ヨーロッパ中部、北米北東部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、西部太平洋赤道域、中部大西洋赤道域～中東、インドシナ半島で活発、北大西洋西部の熱帯域、インド洋中・東部の広い範囲、フィリピン周辺で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬から中旬に太平洋～アフリカ～インド洋を東進し、下旬には太平洋中部まで達した。対流圏上層では、インド洋で南北半球対の低気圧性循環偏差となった。ユーラシア大陸南部～北太平洋の北緯30度帯で波列パターンが卓越し、東シナ海付近で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、太平洋西部で南北半球対の低気圧性循環偏差、フィリピンの北で高気圧性循環偏差となった。海面気

圧は、赤道域では、南米～アフリカ～インドネシア付近で正偏差、太平洋中部～東部で負偏差となった。南方振動指数は0.0だった。

### 世界の天候

2019年1月の世界の月平均気温偏差は+0.39°C（速報値）で、1891年の統計開始以降2番目に高い値となった。1月の世界の平均気温は上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.77°C/100年（速報値）である。

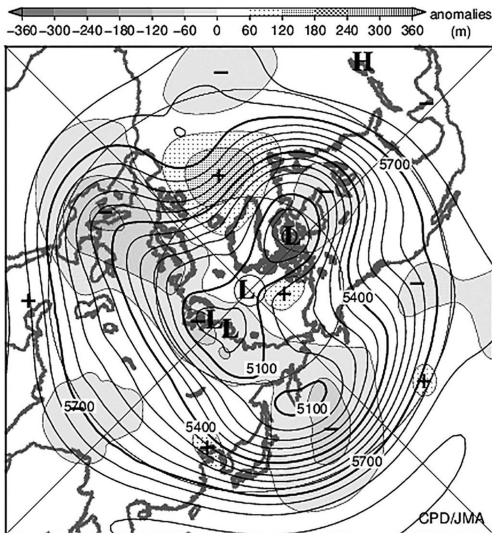
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中国北東部～中央シベリア南部、中国南部～東南アジア中部、サウジアラビア中部及びその周辺、ブラジル南部及びその周辺、オーストラリア北部～南東部、ニュージーランドで異常高温となった。
- 中国南部～タイ西部、ルーマニア西部～ギリシャ中部、ウルグアイ～アルゼンチン北部で異常多雨、北日本～朝鮮半島南部、ブラジル南東部で異常少雨となった。

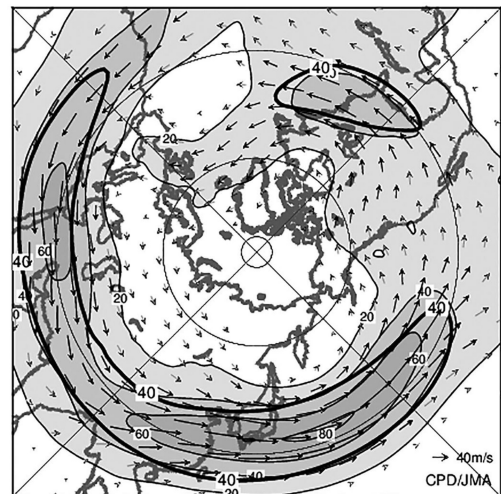
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

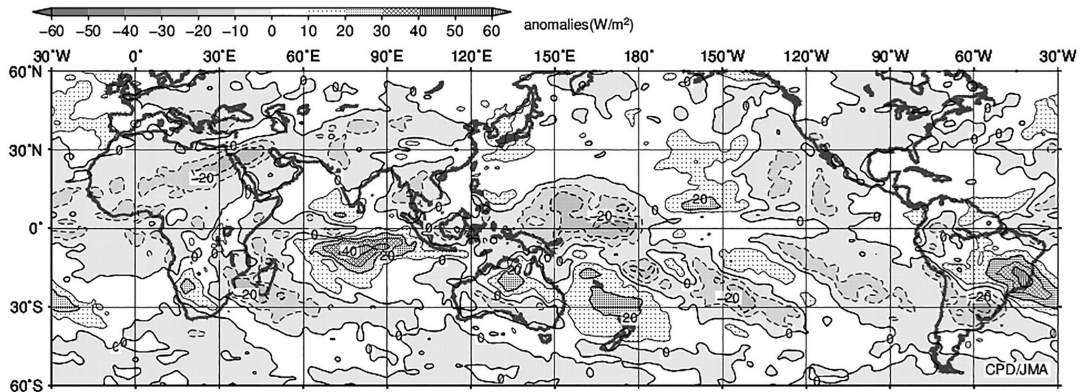
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2019年1月の北半球月平均500 hPa 高度及び  
 年偏差  
 等値線間隔は60 m。陰影は年偏差。年偏差は  
 1981～2010年の平均値。

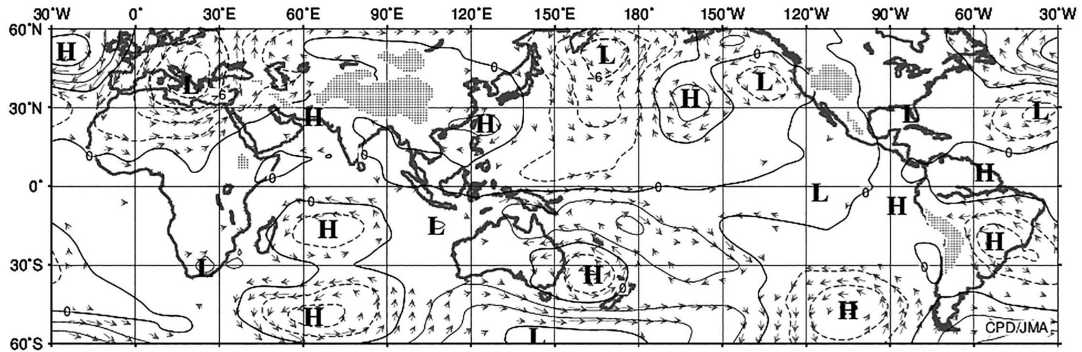


2019年1月の北半球月平均200 hPa 風速及び風  
 ベクトル  
 等値線間隔は20 m/s。太実線は平年の風速で等  
 値線間隔は40 m/s。年偏差は1981～2010年の平  
 均値。



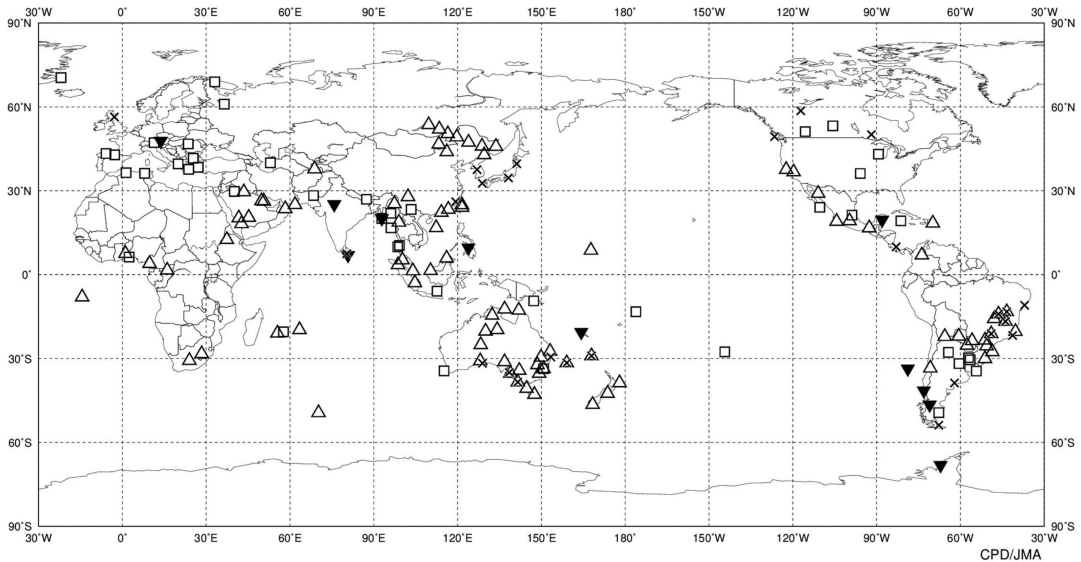
2019年1月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2019年1月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2019年1月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。